第2節 幼稚園・保育園への要望

いずれの都市でも多くの母親は園に対して、人とのかかわり方を教えてほしいと希望している。また、東京、ソウル、台北は就園状況別でみると、それぞれの特徴があることがわかる。

幼稚園・保育園への要望については、就園児の母親の回答のみを抽出し、分析してみよう（**図4－2－1**）。この図から以下の4つのことがわかる。

1つ目は、人とのかかわり方に関する要望がどの都市も高いことである。人とのかかわり方に関する項目については、「集団生活のルールを教えてほしい」が、東京とソウルでは8割（「とてもそう思う」＋「まあそう思う」、以下同様）で、北京、上海、台北では9割である。「子どもに友だち付き合いが上手になるような働きかけをしてほしい」は、東京では8割弱で、それ以外の都市では9割を超えている。

2つ目は、東京では幼稚園・保育園に対して、人とのかかわり方に関する要望が強い一方、知的教育の面に関する要望がそれほど高くないことである。「知的教育を増やしてほしい」は4割で、「保育終了後、おけいこ事をやってほしい」は4割弱である。

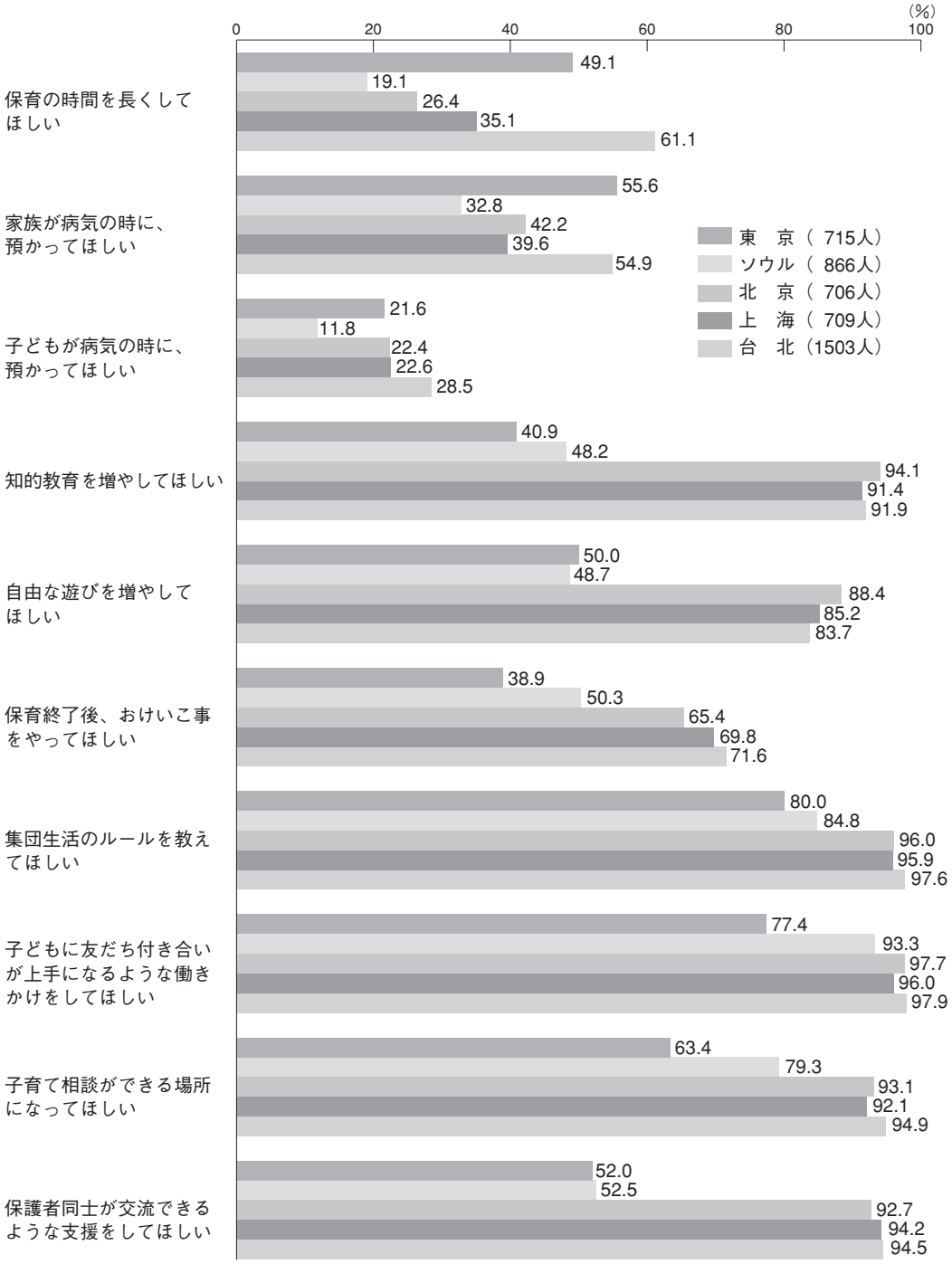
ほかの都市の特徴をみると、次の3つ目のことがわかる。北京、上海、台北では幼児園や幼稚園・託児所に対して、知的教育の面に関する要望が高いことである。9割の母親は「知的教育を増やしてほしい」と回答し、6～7割は「保育終了後、おけいこ事をやってほしい」と回答した。

4つ目は、ソウルでは幼稚園・保育施設に対して預け先としての機能に関する要望（「保育の時間を長くしてほしい」「家族が病気の時に、預かってほしい」「子どもが病気の時に、預かってほしい」）が低いことである。それ以外では東京と似ている傾向があるようである。

10項目を通してみると、台北はどの項目も回答比率が高いのが特徴である。北京と上海は幼児園の預け先としての機能に関する項目（「保育の時間を長くしてほしい」「家族が病気の時に、預かってほしい」「子どもが病気の時に、預かってほしい」）の比率が高くないが、それ以外の項目では、回答比率が高い。

幼稚園・保育園への要望について、回答比率が高いからといって、園側がニーズに応えていないとは限らない点に注意したい。母親のニーズに対応していても、園に対してもっとやってほしいと希望していることも考えられる。また、回答比率が低い場合も、2つの可能性が考えられる。1つ目は、現在園のほうで十分に対応しているため、要望が高くあらわれない可能性である。2つ目としては、都市により、制度や園の機能が異なるため、決められている以外のことを希望しても園には対応できないことが母親にわかっている可能性もある。

■図４－２－１　幼稚園・保育園（保育施設・幼児園・託児所）への要望



注１）「とてもそう思う」＋「まあそう思う」の%。
注２）就園児の母親の回答のみ分析。
注３）「知的教育を増やしてほしい」について、ソウルでは「認知学習を増やしてほしい」となっている。

就園状況別にみた各都市の特徴

つづいて、就園状況別に幼稚園・保育園への要望を分析してみたい。北京と上海の場合、日本のように、保護者の就業などの状況によって、子どもの就園状況に違いはなく、3歳以上の幼児は日本の幼稚園と保育園のそれぞれの特徴をあわせ持っている幼児園のみに通っているため、ここでは、就園状況別の分析から除外する。日本の就学前の幼児教育制度に比較的に似ているソウルと台北を取り上げて、就園状況別に幼稚園・保育園（保育施設・託児所）への要望を分析する（**図4－2－2**）。この結果、都市によって、いくつかの特徴がみられた。

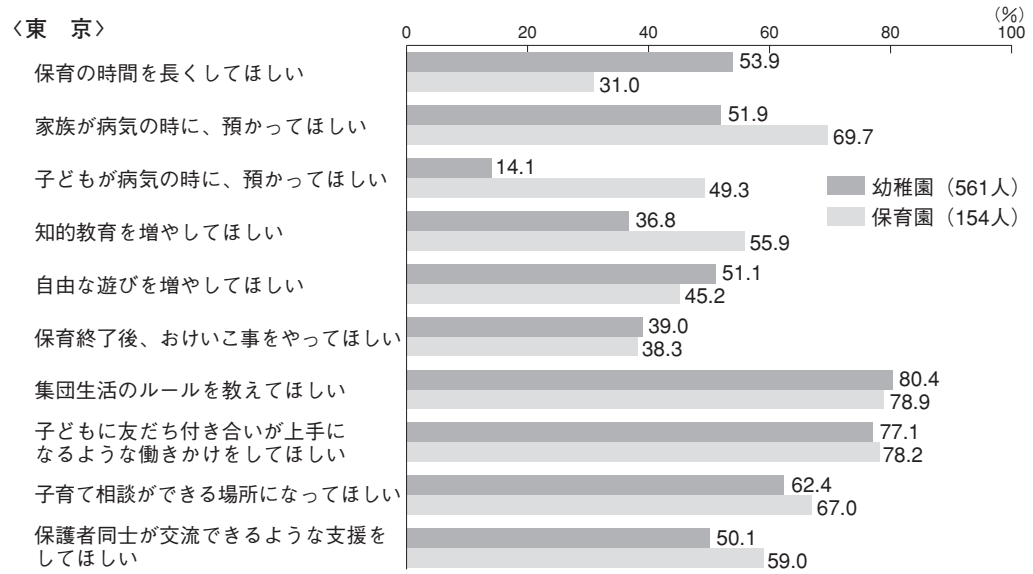
東京の特徴は、ソウル、台北より就園状況の違いによる差が大きいことがあげられる。幼稚園と保育園とで比率の差が大きかった項目をあげると、「子どもが病気の時に、預かってほしい」で、35.2ポイント差（幼稚園14.1%＜保育園49.3%）、「保育の時間を長くしてほしい」で、22.9ポイント差（幼稚園53.9%＞保育園31.0%）、「知的教育を増やしてほしい」で、19.1ポイント差（幼稚園36.8%＜保育園55.9%）、「家族が病気の時に、預かってほしい」で、17.8ポイントの差（幼稚園51.9%＜保育園69.7%）である。

ソウルの特徴は、ほとんどの項目では、保育施設より幼稚園への要望が高いことである。「子どもが病気の時に、預かってほしい」（幼稚園9.0%＜保育施設13.6%）、「保護者同士が交流できるような支援をしてほしい」（幼稚園50.6%＜保育施設54.0%）の2項目が幼稚園より保育施設への要望が若干高い。

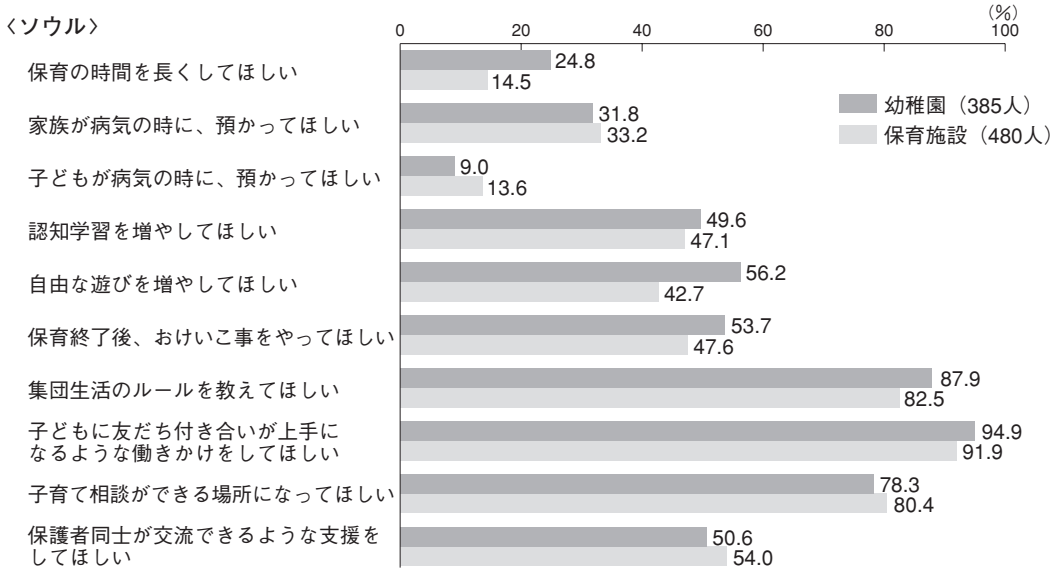
台北の特徴は、就園状況の違いによる差がほとんどみられないことである。「家族が病気の時に、預かってほしい」（幼稚園53.4%＜託児所61.0%）、「子どもが病気の時に、預かってほしい」（幼稚園27.0%＜託児所34.8%）の2項目のみ、託児所への要望が幼稚園への要望より若干高い程度である。

上記のような就園状況別にみた各都市の特徴はそれぞれの都市の就学前の幼児教育制度が担う役割の相違によるものが大きいのではないかと思われる。

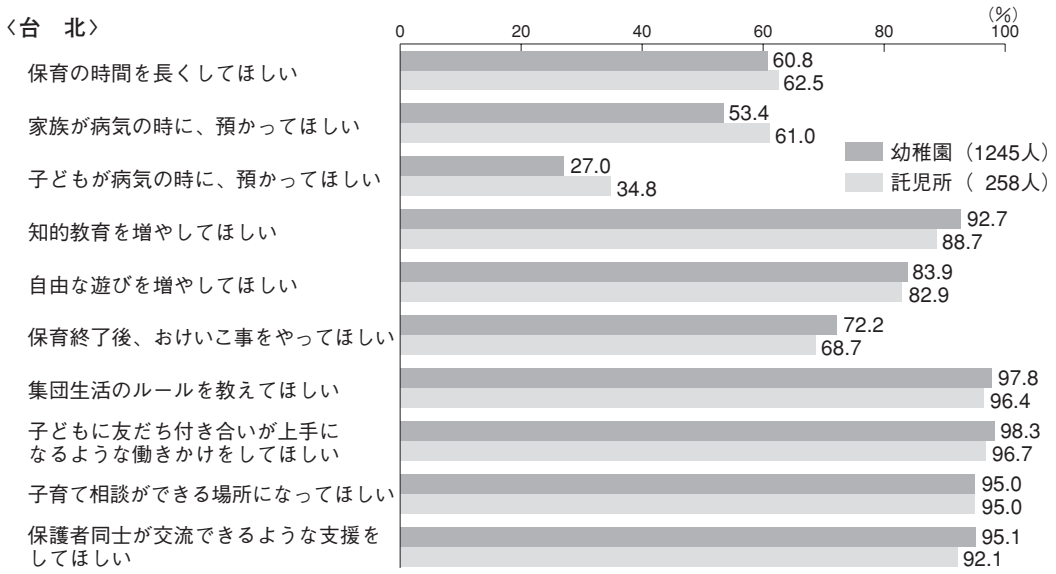
■図4－2－2　幼稚園・保育園（保育施設・託児所）への要望（就園状況別）



〈ソウル〉



〈台　北〉



注1）「とてもそう思う」＋「まあそう思う」の%。
注2）就園児の母親の回答のみ分析。
注3）「知的教育を増やしてほしい」について、ソウルでは「認知学習を増やしてほしい」となっている。